

令和6年能登半島地震 災害での活動報告

日本赤十字社大分県支部

北島 純子

赤十字の切れ目のない支援

こころのケア



医療救護
義援金の受付

防災セミナー
救急法講習

医療救護
救援物資の配分

全国を6ブロックに分けて派遣

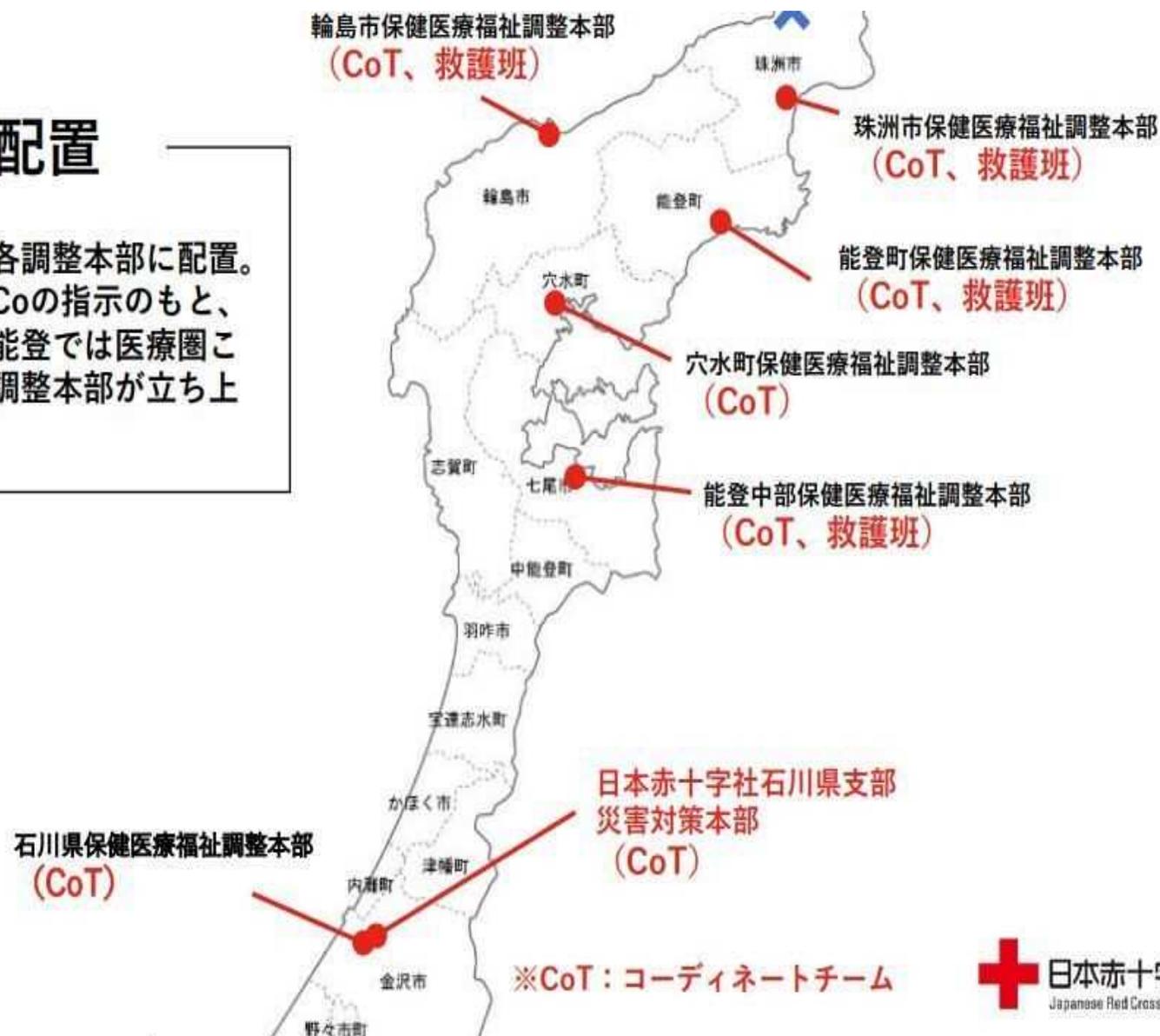
- ・ 1 B : 北海道・東北
- ・ 2 B : 関東・新潟・山梨
- ・ 3 B : 中部・北陸
- ・ 4 B : 関西
- ・ 5 B : 中国・四国
- ・ 6 B : 九州

**日赤救護班は
全国から被災
地へ**

令和6年能登半島地震への対応について

CoT、救護班の配置

今回の災害においては、CoTを各調整本部に配置。CoTが他組織との連携のもと、Coの指示のもと、救護班が活動する体制を確立。能登では医療圏ごと本部ではなく、市町ごとの調整本部が立ち上がった。



日赤全体での救護班等の活動状況

職員派遣



救護班(DMAT含む)
 延べ**342班**を派遣



日赤災害医療
 コーディネートチーム
 延べ**119チーム**を派遣



こころのケア班(調整班除く)
 延べ**45班**を派遣



支部支援要員
68人を派遣

ボランティアの活動



赤十字ボランティア
 延べ**1,709人**が活動

救援物資の配布



毛布 **16,005枚**



安眠セット **5,230セット**



緊急セット **2,224セット**



その他
 携帯型簡易トイレ**3,400個** 等

○救護班 : 令和6年3月11日まで活動

○こころのケア班 : 令和6年5月 7日まで活動

大分県支部の対応

- (1) 救護班 3 班を現地へ派遣
(活動場所は七尾市)

- (2) 日赤コーディネーターチーム 1 班を
現地へ派遣
(活動場所は能登町)

- (3) こころのケア班 1 班を現地へ派遣
(活動場所は七尾市)

救護班

(1) 活動期間

○救護班 1 班：R6年 1 月 1 7 日（水）～ 1 9 日（金）

○救護班 2 班：R6年 1 月 2 9 日（月）～ 3 1 日（水）

○救護班 3 班：R6年 2 月 9 日（金）～ 1 2 日（月）

(2) 活動場所

○七尾市



救護班

(3) 活動内容

○指定避難所・福祉避難所
を巡回診療

○避難所アセスメント

施設・避難所等ラピッドアセスメントシート (OCR 対応様式) Ver.20210907

□の欄は、使用可能・該当・対応済であれば、✓を入れてください

* A: 充足 B: 改善の余地あり C: 不足 D: 不全

避難所コード																
調査日	2	D			年			月			日	#A-D 選択式の項目が全て A 評価になるまで連日記入				
	A M				P M			時			分	#人数は概算可				
調査者氏名												調査者所属				
電話番号																
施設名												固定電話				
所在地												携帯電話				
											FAX					
避難所運営組織											<input type="checkbox"/>		代表者名			
避難者数 (人) (A)					内訳					内訳						
災害発生人数 (B)					避難所以外の避難者数 (概算)					女性 (人)						
											※有事発生時 (B) - 避難者数 (A)					
避難者数 (再掲)	昼間人数 (人)				夜間人数 (人)				車中泊人数 (人)							
	75 歳以上 (人)				未就学児 (人)				乳児 (人)							
ライフライン / 通信	飲料水	A~D		食事		A~D		使用可能トイレ		A~D						
	電気	A~D		ガス		A~D		生活用水		A~D						
	固定電話	<input type="checkbox"/>		携帯電話		<input type="checkbox"/>		衛星電話		<input type="checkbox"/>		データ通信 <input type="checkbox"/>				
医療支援	救護所設置 <input type="checkbox"/>				医療チームの巡回 <input type="checkbox"/>											
避難所の環境	遮音度	A~D		毛布等備品		A~D		室温管理		A~D		手洗い・備品		A~D		
	トイレ	<input type="checkbox"/>		土足禁止		<input type="checkbox"/>		下水		<input type="checkbox"/>		室内		<input type="checkbox"/>		
	男女別更衣室	<input type="checkbox"/>		男女別トイレ		<input type="checkbox"/>		男女別居住スペース		<input type="checkbox"/>		授乳室等		<input type="checkbox"/>		
	感染症対策・汚損物品	<input type="checkbox"/>		パーティションによる区切り		<input type="checkbox"/>		段ボールベット		<input type="checkbox"/>		ベットの設置		<input type="checkbox"/>		
要配慮者 (人)	うち 区画的要配慮者				うち 組織的要配慮者				うち 外国人							
要医療サポート (人)	人工呼吸器 重インスリン治療 難病				在宅療養 緊急時の要 精神疾患				透析 重篤な治療 透析疾患				要緊急処置 妊娠			
有症状者 (人)	発熱				咳・痰				下痢				嘔吐			
傷病者数 (人)	インフルエンザ				感染性胃腸炎											
その他 緊急事項																

問合せ先：芝浦工業大学 システム理工学部
市川 学 (m-ichi@shibaura.ac.jp)

現地の様子（能登島内周辺）



現地の様子



現地の様子（能登島内周辺）



巡回診療の様子

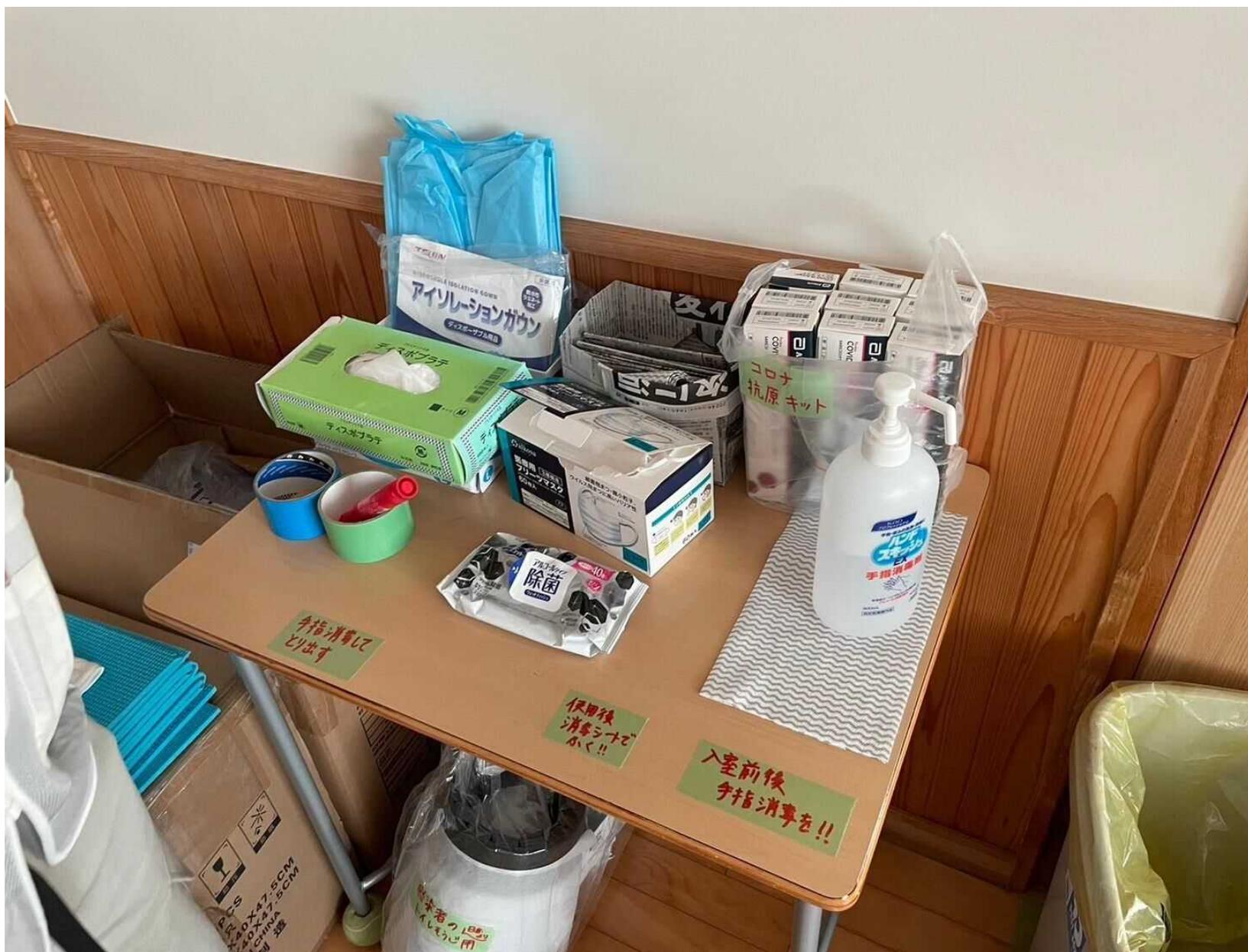


巡回診療の様子



巡回診療の様子









日赤災害医療コーディネーターチーム

(1) 活動期間

○R6年2月3日(水)～7日(木)

(2) 活動場所

○能登町保健医療福祉調整本部

(3) 活動内容

医師、看護師、薬剤師、事務職員等で構成され、救護班の活動調整や**他機関との連携を図る**

活動の様子





避難所	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5
宇出澤小学校	—	—	福島 JMAT		
能都中学校	—	—	福島 JMAT		
鶴川小学校	(久保田)	—	福島		
小不 <small>中</small> 小学校	仙台	堂比2中江	福島		
小木小学校	仙台	堂比2中江	福島		
松波中学校	仙台	福島	(福島)		
白丸公民館	仙台	福島	福島 JMAT		
福小地域交流センター	—	福島	福島		
柳田小学校	仙台	福島	福島		
こまち	JMAT	JMAT			
こまち	JMAT	JMAT			

避難所アセスメント (医療-2) 2/2

宇出澤小学校 電話相談なし

能都中学校 電話相談なし

鶴川小学校 2/1 男: 2名(1名陽性者, 1名陰性者) 2/2 男: 2名(1名陽性者, 1名陰性者)

柳田小学校 COVID19陽性者 咳痰 発熱 咽下痛 2/1 男: 1名(陽性) 2/2 男: 1名(陽性) 2/3 男: 1名(陽性) 2/4 男: 1名(陽性) 2/5 男: 1名(陽性)

岩井戸公民館 2/1 男: 1名(陽性) 2/2 男: 1名(陽性) 2/3 男: 1名(陽性) 2/4 男: 1名(陽性) 2/5 男: 1名(陽性)

松波中学校 2/1 女: 1名(陽性) 2/2 女: 1名(陽性) 2/3 女: 1名(陽性) 2/4 女: 1名(陽性) 2/5 女: 1名(陽性)

小木小学校 医療-2-2なし

小木中学校 問題なし

柳田公民館 新規 COVID19陽性者 3名 (利用者1名 職員2名)

白丸公民館 2/1 男: 1名(陽性) 2/2 男: 1名(陽性) 2/3 男: 1名(陽性) 2/4 男: 1名(陽性) 2/5 男: 1名(陽性)

白丸公民館 2/1 男: 1名(陽性) 2/2 男: 1名(陽性) 2/3 男: 1名(陽性) 2/4 男: 1名(陽性) 2/5 男: 1名(陽性)

小不地域交流センター 2/1 男: 1名(陽性) 2/2 男: 1名(陽性) 2/3 男: 1名(陽性) 2/4 男: 1名(陽性) 2/5 男: 1名(陽性)

活動の様子



こころのケア班

(1) 活動場所

○七尾市役所

(2) 活動期間

○R6年3月4日(月)～8日(金)

こころのケア班活動の様子



病院支援

(1) 活動期間 令和6年3月2日(土)
～3月5日(火)

(2) 活動場所 市立輪島病院

市立輪島病院の状況

ライフライン

電気

通信

水道

下水



生活に関して

入浴

トイレ

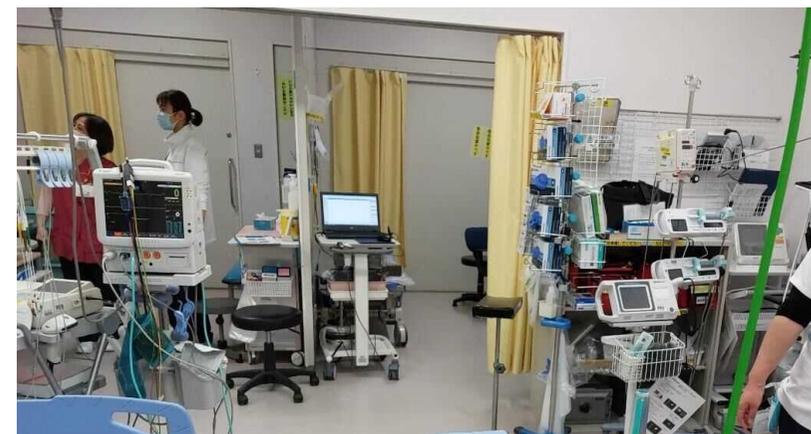
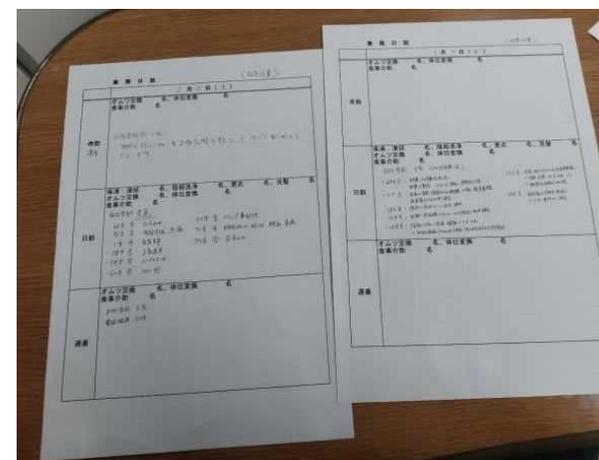
食事

飲食店

スーパー等



(1) 活動内容
救急外来受診患者の対応
救急車対応
発熱外来対応



震災による救急外来の問題

- 重症患者の受け入れ
- 転院搬送
- 退院後の受け入れ先
- 葬儀社



活動を通じて感じたこと

①情報システムの統一化

(理由) 保健師チームや行政職員等から、それぞれ重複情報が入ることが多いため、情報の統制と明確な役割分担が必要。また情報収集は被災者の負担にもなることを常に意識して行うこと。

②自助・共助の重要性周知

(理由) 亀裂や土砂崩れによる道路被害がひどかった。備蓄など公助が入るまでの事前の対策や自助・共助の重要性を実感した。日頃からの防災セミナーや訓練等を実施することはとても大切である。

③感染症隔離方法の統一化

(理由) 各避難所の状況で対応が違いため、基本が統一化されていれば、避難所責任者も動きやすい。

④巡回バス等交通手段の確保

(理由) 交通手段がなく、医療機関を受診できない避難者や在宅者が多い。

ご清聴ありがとうございました。

